

在校生インタビュー

東京都立
城南職業能力開発センター
(令和元年9月19日現在)

若年者就業支援科（建築塗装コース）修了予定の松谷さんにお話を聞きました！



インタビューを受ける松谷さん（奥右）と、金子指導員（奥左）

―はじめに、城南センターを知ったきっかけを教えてください。

松谷さん 城南センターのことは、ハロワークで就職について情報を探している時に知りました。

―なぜ、若年者就業支援科（建築塗装コース）を選んだのですか？

松谷さん 塗装の訓練をやると知って、自分の趣味の模型作りの色を塗る過程と通じるところがあり、自分に合っていると思ったからです。

―入校前は模型のような小さなものの塗装をイメージしていたのですね。入校した後、そのイメージとのギャップはありましたか？

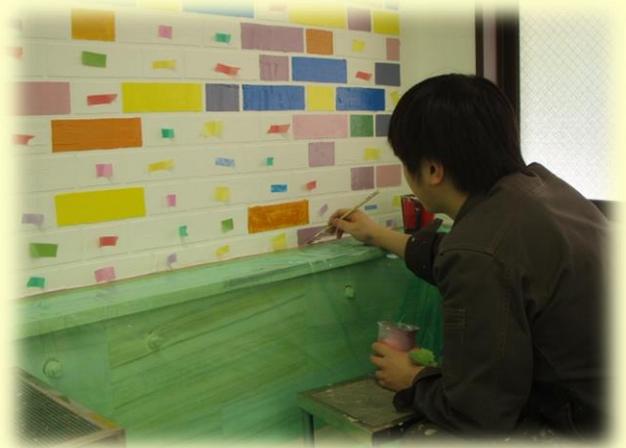
松谷さん ありました！塗装を施すものが、想像していた模型などより大きなものばかりでした。建築物の塗装を学ぶというイメージを持っていなかったので、戸惑いましたね・・・正直、入校当初はやめたいと思ったことも何度かありました。

―なるほど。では、やめずに続けていられたのはなぜなのでしょう？

松谷さん 訓練を続けていて、だんだん楽しくなったことが一番ですね。作品が完成すると嬉しかったです。

指導員 え、それだけ？

松谷さん いや、もちろん先生が親身になって面倒を見てくれたことも感謝していますよ！（笑）



タイル張りの壁面を塗装する作業

指導員 生徒さんに作品を作り上げる達成感を感じてもらうために、入校直後は短い時間で作品が完成するようにカリキュラムを工夫しているんだよ。

―では続いて、訓練生活の中で特に印象に残っていることはなんですか？

松谷さん モノづくり競技会です！同じ課題に対して、他校の訓練生と完成度を競うのは新鮮な体験でした！

―どのような課題でしたか？

松谷さん 金属製のボックスの表面を塗装する課題です。競技会に向けて何度も練習をしました。はじめは自分のイメージしていたものができませんでしたが、段々と上達し、技能を身に付けている感覚を感じられて嬉しかったです。

指導員 競技会では敢闘賞をとれたんだよねー！

—すごいですね！自信を持てる経験になったんですね。 それでは、訓練で苦労したことはありますか？

松谷さん エアブラシを使った訓練が大変でした。色がはみ出てしまったり質感の表現が難しかったりと、イメージ通りの仕上がりにすることが難しかったです。

—なるほど。様々な訓練を経験して、自身の向き不向きを把握することができたんですね。

松谷さん 逆に、タイル張りの壁をカラッ

ルに塗装する作業は楽しくでき、自分に向いているかなとも思いました。

—では修了を間近に控える中で、今のようなことを感じているか教えてください。

松谷さん そうですね・・・。まずは、仕事を頑張ろうと思っています。今まで訓練で学んできたことを活かして頑張っていきたいです。

—1年間は長かったですか？短かったですか？

松谷さん 短かったです。あっという間でし

た。それと、訓練の中で職人の技を身に付けていることを実感できたのが嬉しかったです。

—修了後は就職と伺っていますが、これから働いていく中で何を目標にしますか？

松谷さん 自分の家を持ちたいと思っています！家の中に塗装をするための部屋を作って、模型などに色を塗りたいです！

指導員 身に付けた技能を趣味でも活かしたいってことだね。そのためにも、仕事の中で技術を磨いていって実力を身に付けていかないとね。

—最後に、これから入校される後輩の方に向けて、アドバイスをお願いします！

松谷さん 努力あるのみです！初めはできないのは当たり前、先生の話をよく聞いて真面目に取り組むことが大事だと思います。

—本日は、どうもありがとうございました！



松谷さんの作品。金属製の箱にロボットアニメのキャラクターを塗装。